

文化審議会文化財分科会企画調査会 中間整理【概要】

1. 検討の背景

- 文化財の修理技術者等や、用具・原材料の確保・支援等を持続的に進めるための5か年計画として「文化財の匠プロジェクト」を策定（令和3年12月24日文科科学大臣決定）
- 同プロジェクトの更なる対応策及び平成29年諮問の継続審議事項の検討が必要（審議事項）
 - （1）文化財の保存技術や技能の継承、修理技術者等の確保及び支援の在り方
 - （2）文化財の保存に必要な用具や原材料等の安定的な確保の方策
 - （3）持続可能な文化財保存の在り方など制度的対応（保存と活用の循環、資金調達の促進）

2. 課題及び検討の方向性

（1）文化財の保存技術や技能の継承、修理技術者等の確保及び支援について

主な課題

- ・ 技術者が減少し、後継者養成を限られた現役技術者が担うなど負担が大きい
- ・ 市場規模が小さく、家業として零細に営まれている場合が多いなど、事務機能が脆弱
- ・ 技術者・団体間や原材料生産者等との連携が少ない
- ・ 文化財を護り支えてきた重要性に比して認知度が低い

検討の方向性

- 選定保存技術の認定の運用（原則1名・1団体）を改め、保存技術をめぐる状況に応じて複数認定の方針を明確化
- 技術者が後継者養成や技術錬磨に注力できるよう、管理業務のサポート体制を整備
- 文化財修理技術者等の社会的認知向上のため、顕彰制度や広く認識され親しみのある通称（「伝統の名匠」など）を検討
- 匠の技を伝える真正な用具・原材料の確保を支援するなど伝承者養成支援を強化
- 文化財保存技術の分野横断的な拠点、情報収集、調査研究、研修等の機能を有するナショナルセンターとして、文化財修理センター（仮称）の設置に向けた検討を順次推進

（2）文化財の保存に必要な用具や原材料等の安定的な確保について

主な課題

- ・ 文化財修理等の多くは、多種・高品質で少量かつ特殊な用具・原材料が必要
- ・ 原材料の需要開拓など、継続的な生産を支える環境が不足

検討の方向性

- 文化財修理に必要な用具・原材料に関する需給調査、代替材料も含めた原材料の調査研究、調査で得られた知見の集約・情報発信を定期的・継続的に実施
- 文化財の保存・継承に不可欠で安定供給を図るべき原材料をリスト化し、長期的な安定供給のための仕組みを検討
- 文化財建造物の修理に伝統的な和紙等を活用するなど需要創出

（3）持続可能な文化財保存のための対応について

主な課題

- ・ 文化財の修理は、適正な周期で行われることが必要
- ・ 寄附金を含めて資金工面が困難な所有者が多く、公的機関のサポートが必要

検討の方向性

- 多様な文化財について、長期的な修理需要予測調査を実施
- 地方公共団体における幅広い文化財の保存活用とファンドレイズを組み合わせた枠組み形成の支援など、多様な資金調達を後押しする仕組みを検討

3. 今後に向けて

- 具体化に向けて引き続き検討を進め、令和4年末を目途にとりまとめを行う